〔館蔵品紹介〕

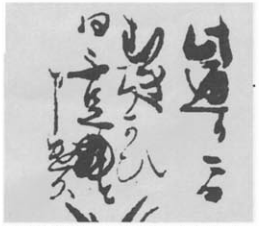
俵屋宗達筆　桜図について

紙本墨画　105.2×42.1cm　江戸時代前期

「宗達が絵は、影法師を写し得たるものなりと云、尤の事なりと仰らる」。これは『槐記』の享保十四年(1729)十三日の条の一節です。近衛家熙の口授を山科道安が筆録したもので、この日は進藤一葉の茶湯に招かれていました。『槐記』によると、進藤一葉は宗達の水墨画を三幅所持しており、ここでも、その一幅を掛けていました。その席で、一葉が宗達水墨画について影法師のようだと言い、家熙が同意したという記事です。

影法師とは、輪郭線を用いず、没骨法で描く描法をたとえているのでしょう。もちろん、その一言では、宗達の水墨画は言い尽せませんが、宗達の没後半世紀以上たった時期の宗達理解の一端が知られます。この『槐記』を読んで、思い出されるのが、当館に所蔵される「桜図」です。この作品には、「宗達法橋」の落款があり、「対青軒」の朱文大円印が捺されています。この印は俵屋の工房印として認められていますが、この作品が宗達自身の作かどうかは意見の分かれるところです。しかしながら、墨の濃淡とたらし込みによって巧みに量感をつくっていく作風は、おそらく、この当時の人々には宗達作品として認められたように思えます。享保元年(1716)に光琳が没していますので、ほぼ同時代人の意見です。

光琳は水墨あるいは水墨に淡い彩色を加えた草花図を数多く制作していますが、興味深いことに、この作品とほとんど同じ図様のものが、『光琳百図』に見出せます(以下、百図本と記す)。この冊子は、酒井抱一が文化十二年(1815)六月二日の光琳百年忌を記念して編集し、九十九点の光琳作品を収録しています。力強く湾曲する枝振りから、桜花のあしらいまで宗達本と全く同じです。ただ、「絹本墨画夜の桜」という注記から、ここでは絹地に描かれていることが分かります。「夜の桜」という画題は、



『住吉家古画留帖』書入れ

おそらく抱一が付けたのでしょう。いかにも江戸の粋人らしい洒落た画題です。この図では、画面の左下に「法橋光琳」の落款と方印が捺されています。

光琳筆の「桜図」は、この百図本の他にも見出せます。幕府の御用絵師であった住吉家は、作品の鑑定もしており、その控帳が残されています。その一つの『住吉家古画留帳』に、宗達本や百図本と左右が反対になった「桜図」(以下、住吉本Aと記す)が見られます。これは弘化四年(1847)十一月に書き始められた第六冊に掲載されていますので、抱一没後の記録です。縮図のため、細部は比較できませんが、これも非常によく似ています。この図では、画面の右下に大円印が捺されています。

しかし、住吉絵所であった住吉弘定は、光琳の真筆と認めなかったようで、「光琳／不宜ものと／申遣す」と書き込んでいます。また、この縮図には次のような別の書き込みがあります。「此通にて／むきちかい／同不宜と／申遣す」。すなわち、この図と左右反対、宗達本や百図本と同じ構図の作品(以下、住吉本Bと記す)が同時に持ち込まれたことが分かります。この住吉本Bが百図本であったかも知れませんが、ひとまず別作品とすると、光琳筆と伝える「桜図」が、三点あったことになります。

抱一の活躍した文化年間は、光琳作品が再評価された時期で、『住吉家古画留帳』にも多くの光琳作品が見られます。光琳に私淑した抱一は、これらの作品の影響を受けて自らの画風を形成したと言えます。では、抱一の「桜図」に興味が持たれますが、現在のところ確認できていません。ただ、文政五年(1822)正月の『住吉家古画留帳』では、抱一の持参した三幅の光琳画を偽物と判定し、抱一作ではないかと疑っていますので、先の二幅の住吉本に抱一作品が含まれる可能性もあります。少なくとも、桜は抱一の得意の題材ですので、百図本の学習が何らかの形で活かされたことは確かです。例えば、六曲一双の屏風に桜を描いた作品がありますが、左隻の弧線を連ねたような幹の構成は、宗達本や百図本を横にしたように見えます。この作品などは、百図本の大胆な画面構成が見事に消化された作品と言えるでしょう。しかし、幹はより繊細に、葉もそれほど描き込まず、あくまで桜花の艶やかな匂うような情趣を表現しているところに抱一の資質を感じます。

宗達作品では位置付けがむずかしい「桜図」ですが、後の琳派を代表する光琳や抱一に影響を与えていることが分かります。美術史研究では、よく影響関係が論じられます。「桜図」の場合は、時代背景や影響を受ける側の資質に応じて、作品が継承されていく好例と言えるでしょう。　(中部義隆)

桜図　俵屋宗達筆

『光琳百図』のうち

『住吉家古画留帖』のうち

桜図屏風　酒井抱一筆

季刊 美のたより No.97
平成3年11月15日
発行　大和文華館

Copyright ©2007 The Museum Yamatobunkakan. All Rights Reserved.